

# 令和5年シラス曳網調査結果 (第4報)

令和5年7月7日  
福島県水産海洋研究センター

## 1 調査日

6月30日

## 2 調査海域

相馬海域

37-48N 線上 141-00E(水深 10m)、141-05E(水深 29m)  
141-10E(水深 38m)、141-15E(水深 53m)

## 3 調査手法

中層トロール網(魚捕部の目合い 1mm)

水深 10m 付近(一番灘の定点は表層)を 10 分間曳網 (船速 約 2kt)

## 4 調査結果

### (1)表面水温(図 1)

22.6°C~23.9°C

### (2)シラス採捕数(図 1)

1 定点あたり 1~8,608 尾 (合計 10,897 尾)

今回のシラス採捕数は前回調査時(6月21日、16~1,664尾、合計3,243尾)と比較し、増加しました。

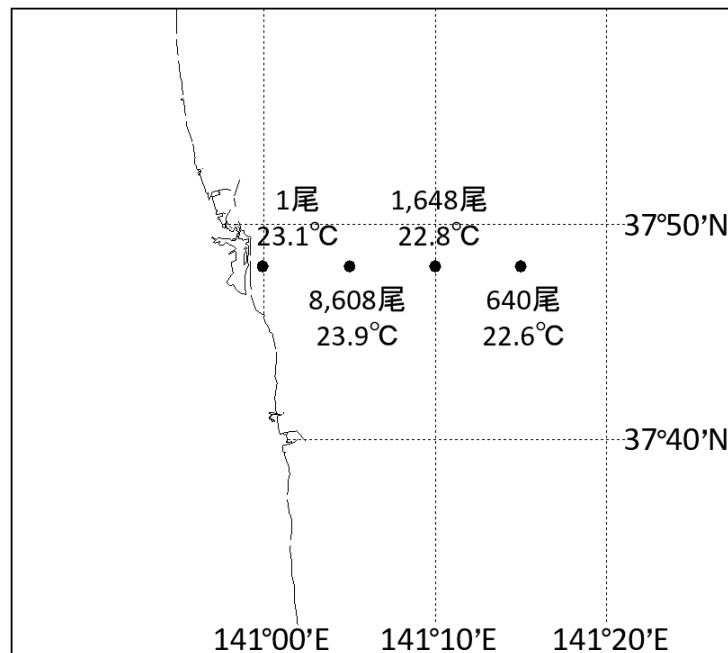


図1 カタクチイワシシラス採捕数

(3)シラス全長(図2)

全長範囲：5.6～28.1mm(モード：10～12mm)

全長10mm前後の群で構成されていました。

いずれの定点においても10mm前後にモードがあり、141-05Eでは20mm程の大きさのシラスも確認されました。

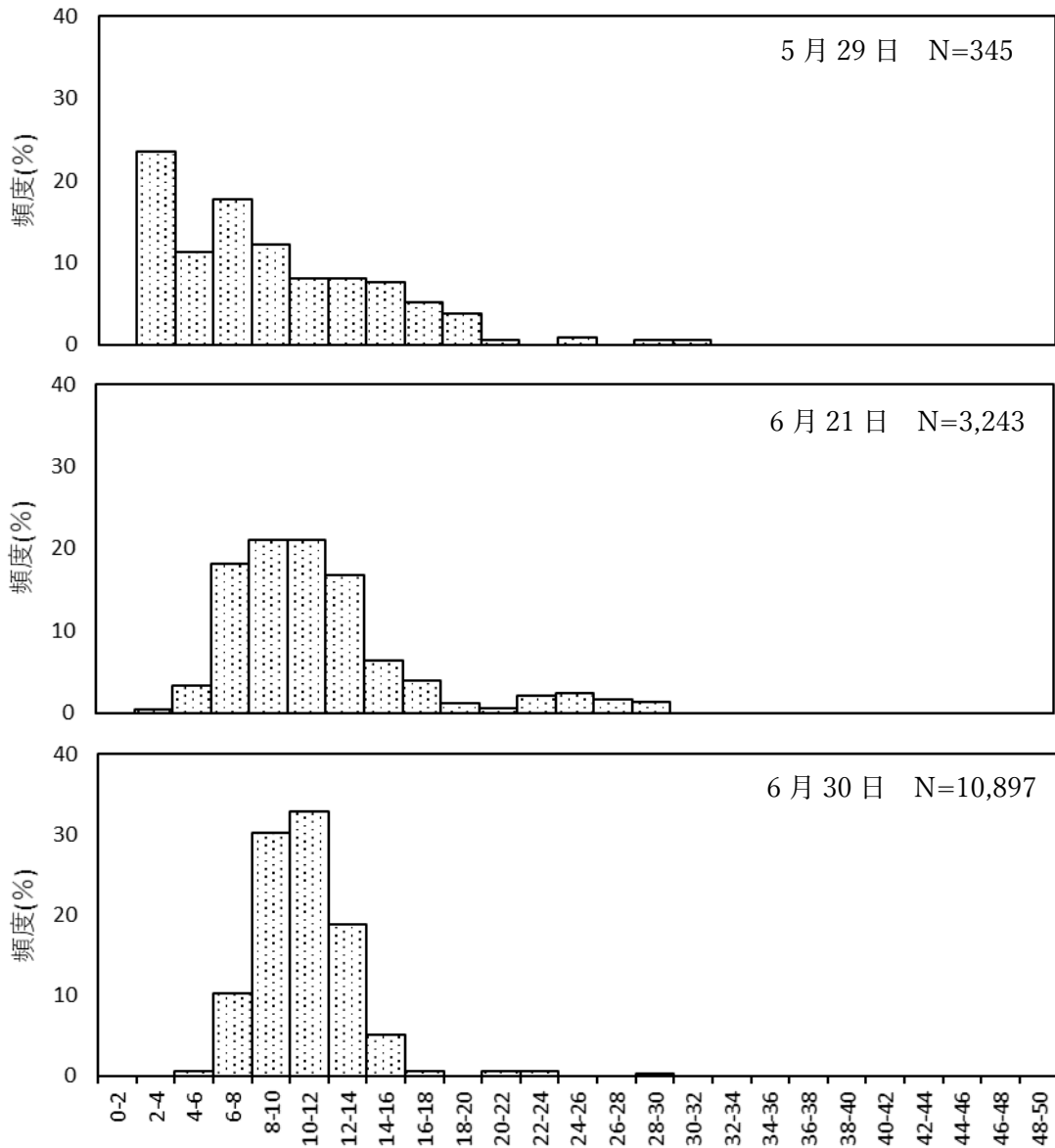


図2 カタクチイワシシラスの全長組成

(4)過去の調査結果との比較(図3)

令和5年6月のシラス採捕数は平成18年以降で最多となりました(図3(a))。

なお、福島県の年別シラス漁獲量を(図3(b))に示します。

今後、本調査でのシラス採捕数、シラス漁獲量の動向を注視し、両者の関係について解析を行っていきます。

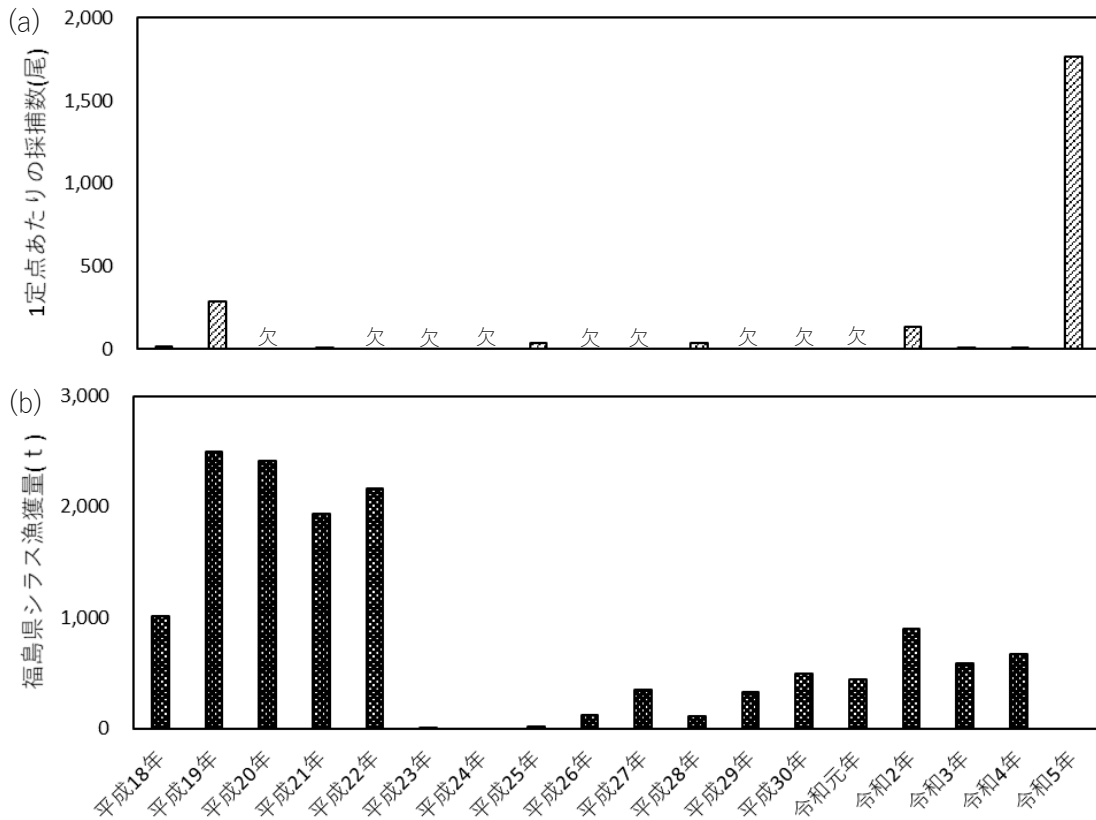


図3 (a)相馬海域における6月の1地点あたりの採捕数  
(b)福島県の年別シラス漁獲量

1 調査日

7月4日

2 調査海域

相馬海域

37-48N 線上 141-00E(水深9m)、141-05E(水深28m)  
141-10E(水深36m)、141-15E(水深54m)

3 調査手法

中層トロール網(魚捕部の目合い1mm)

水深10m付近(一番灘の定点は表層)を10分間曳網(船速約2kt)

4 調査結果

(1)表面水温(図1)

23.1°C~23.6°C

(2)シラス採捕数(図1)

1 定点あたり 0~4,064 尾 (合計 5,759 尾)

今回のシラス採捕数は前回調査時(6月30日、1~8,608尾、合計10,897尾)と比較し、減少しました。

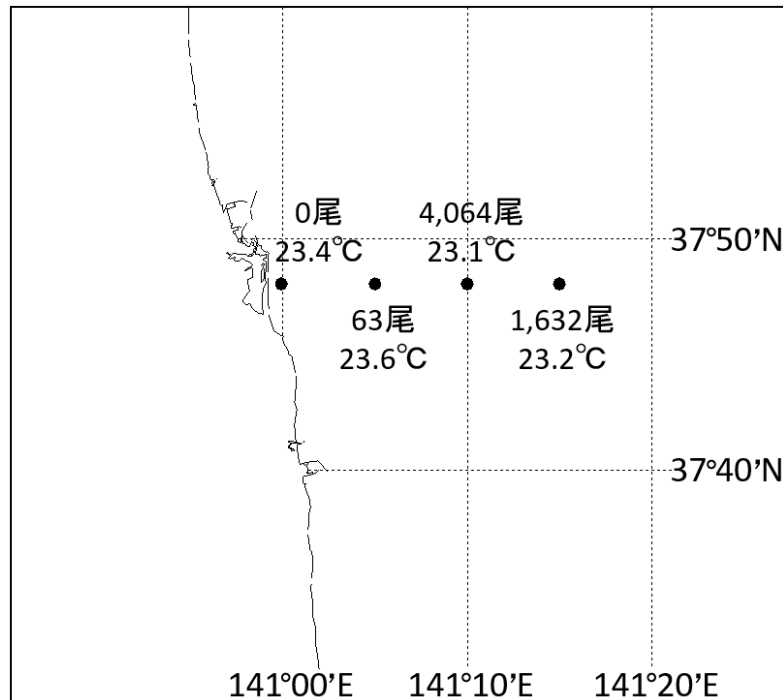


図1 カタクチイワシシラス採捕数

(3)シラス全長(図2)

全長範囲：4.9～46.9mm(モード：20～22mm)

全長10mm前後の群、20mm前後の群の2つの群で構成されていました。

141-05Eでは20mm前後の群、30mm前後の群の2つの群、141-10E、141-15Eでは10mm前後の群、20mm前後の群の2つの群が確認されました。

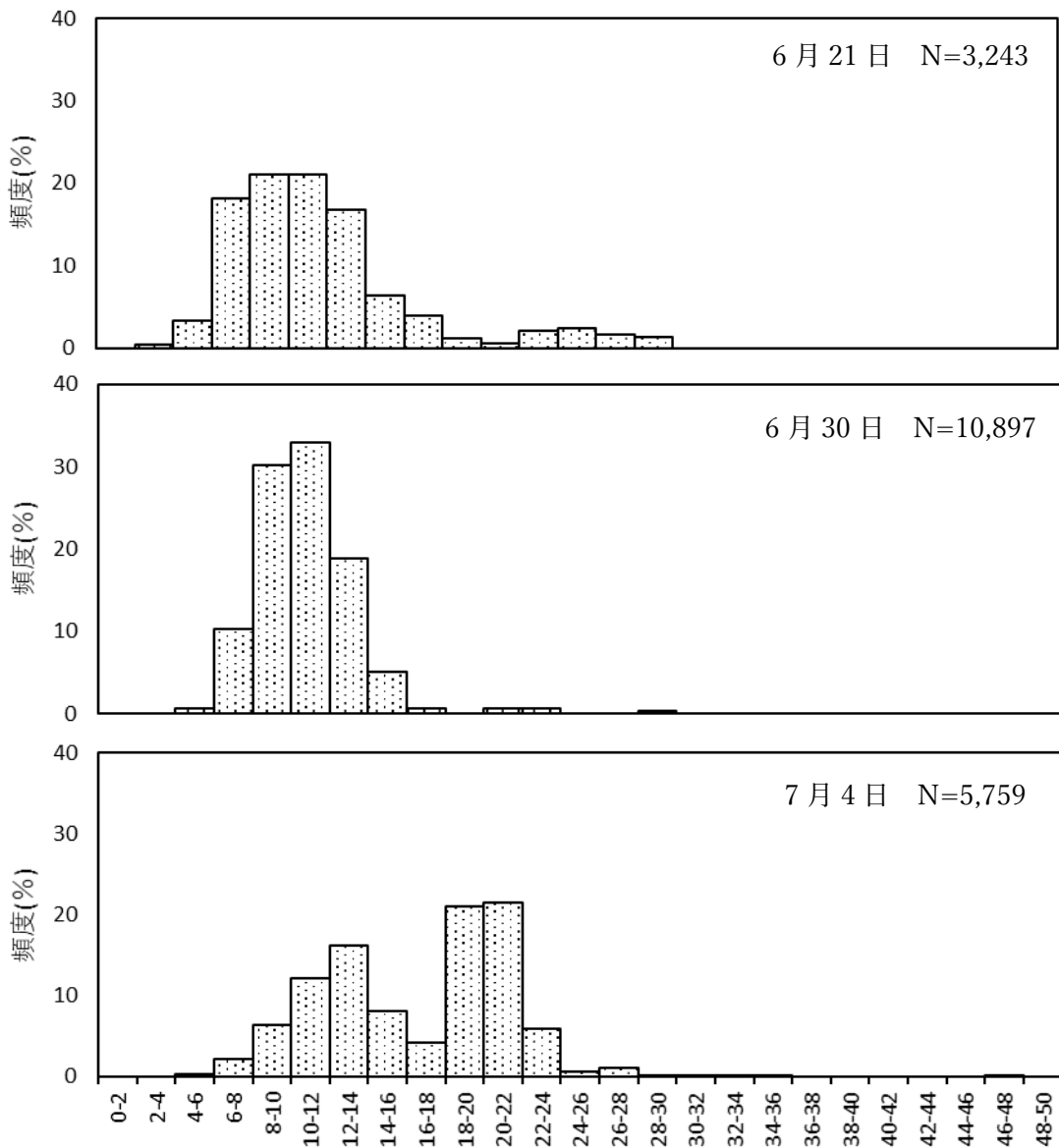


図2 カタクチイワシシラスの全長組成

(4)過去の調査結果との比較(図3)

令和5年7月のシラス採捕数は平成18年以降で4番目に多い結果となりました(図3(a))。なお、福島県の年別シラス漁獲量を(図3(b))に示します。

今後、本調査でのシラス採捕数、シラス漁獲量の動向を注視し、両者の関係について解析を行っていきます。

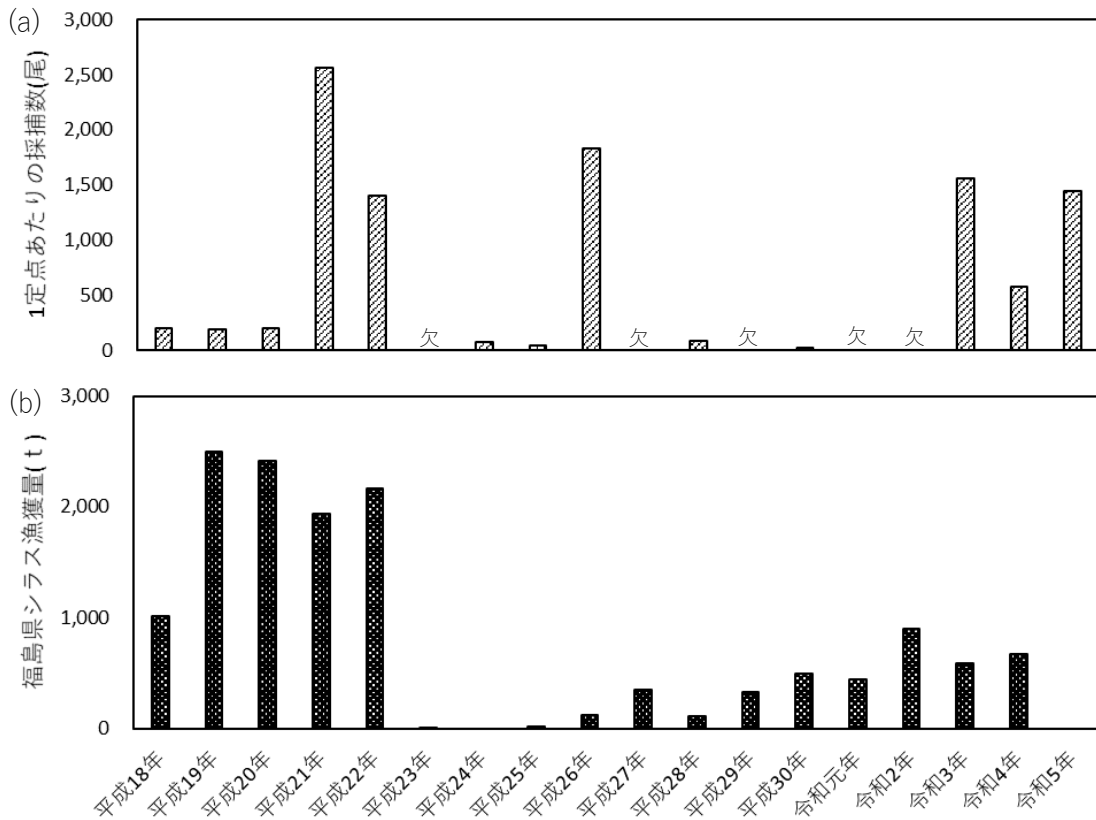


図3 (a)相馬海域における7月の1定点あたりの採捕数  
(b)福島県の年別シラス漁獲量